

公益社団法人 日本天文学会 理事会議事録

日 時：2022年9月13日（火）18時30分～19時50分

場 所：新潟大学（オンライン開催）

出席理事：山本、太田、久保田、町田、鈴木、酒向、鹿野、長瀧、江草、古澤、富田、生田、米原、深沢、西、北本、馬場、山村

欠席理事：なし

出席監事：奥村、花岡

また、佐藤事務長、黒岩事務長補佐、田口谷事務長補佐が出席した。金田英宏次期開催地理事（予定）が陪席した。

I. 確認事項など

I-1. 議事に先立ち、出席者が18名で定足数を満たし、本会が成立することが確認された。

I-2. 前回議事録の確認

資料2に基づき、前回（2022年5月21日）の理事会議事録が報告され、承認された。

II. 議題

以下の各議題に関しても山本会長より提案し、各担当理事に詳細説明を指示した。

II-1. 新規加入者および移籍（準 → 正）の承認（資料3、鈴木）

2022年5月14日～2022年9月5日までに正会員入会申請125名、準会員入会申請15名、賛助会員2団体、移籍（準 → 正）3名の申請があり、賛成多数で承認された。

II-2. 天文月報編集委員会から（資料4、江草）

従来は一部記事を除き1年間は購読者のみに限定してオンライン公開していたが、COVID-19以後、在宅勤務者などへの対応から、広告も含めた全ての記事を即時公開としている。今後従来の方針に戻すかどうかの議論を進める予定である。理事からは、月報の購読は準会員の大きなメリットのひとつであるため、即時公開の継続はそのメリットを損なうとも考えられるとの意見が出された一方で、準会員には年会での発表や各委員会に所属するなど日本天文学会に関わるメリットは依然としてあるとの意見が出された。さらに委員会で検討を継続し、次回以降の理事会で方針を決定する予定である。

II-3. インターネット天文学辞典編集委員会から（資料5、町田）

近年、発展が著しい探査機や天文衛星に関する記述の拡充を図る目的から、新たに吉川真氏（JAXA）に編集委員に加わって頂く提案がなされた。提案は賛成多数で承認された。

III. 報告

III-1. 移籍・退会等の報告（資料3、鈴木）

2022年5月14日～2022年9月5日までに正会員退会23名、準会員退会11名があったことが報告された。

III-2. 天文教育委員会からの報告（資料6、富田）

2022年秋季年会で開催した天文教育フォーラム「新しい指導要領を考える(仮)」の状況が報告された。また、(i)2022年5月21日から9月5日までに講師紹介プログラムに3件、監修者紹介プログラムに1件対応したこと、(ii)男女共同参画委員会との共同で2022年8月にオンライン開催された女子中高生夏の学校に協力したこと、(iii)IAU OAE（教育のための天文学推進室）の天文教育コーディネーター（NAEC）日本チームの活動状況が、日本天文教育普及研究会でのIAU天文教育コーディネーターWGのウェブサイトに掲載されていること、(iv)国際天文オリンピックに、日本から学生主体の団体「日本天文学オリンピック委員会」が代表を送る動きがあることが報告された。(iv)に関して、現在国際天文オリンピックには2団体が並立しているが、一方の大会に個人参加ではあるが国代表という形式で参加する見込みとこのことである。今後、日本天文学会（特に天文教育委員会と理事会）、日本天文教育普及研究会、東亜天文学会の各団体間で情報共有しつつ、経過を見守っていく予定である。これに対して、監事から2005年に文科省から、補助金による助成の打診とともに、国際天文オリンピックへの参加の可能性の検討が提案され、調査の結果見送った経緯があることが報告された。なお、本件とは別に、日本天文学会は日本地学オリンピック委員会からの国内大会での天文分野の作問の依頼を受け、作問者を毎年度1名推薦するという協力を行っていることも、改めて報告された。

III-4. PASJ 編集委員会からの報告（資料7、長瀧）

(i)2021年度のインパクトファクターが3.310であったこと、(ii)2023年からの購読機関への紙版提供廃止、(iii)カラー印刷料金を廃止することが報告された。

III-5. 年会実行委員からの報告（資料8、古澤）

2022年秋季年会をほぼフルハイブリッド形態で行っていることが報告された。今回から参加費の別途徴収が開始されたが、企画セッション非会員の基調講演者とオンライン対応時の副座長・タイムキーパーの参加費を免除するルールを追認した。ハイブリッド開催にともない仕事量が増大しており、委員と担当事務員の増員の要望が出された。また、今後ハイブリッド開催を継続する場合には、多くの検討事項があることが紹介された。具体的には、(i)座長の資格のジュニアポジションへの緩和、(ii)年会の講演ルールの柔軟化、(iii)講演の録画公開の可能性、(iv)行動指針と開催・有事対応指針の設定、などである。

III-6. 現在及び今後の年会の進捗状況報告(新潟大学／西、立教大学／北本、名古屋大学／金田他)

2022年秋季年会の現地参加者が500名強となり、現地参加人数抑制の要請で目標値程度となったことが報告された。2023年春季年会の準備を進めていることが報告された。2023年秋季年会は、公開講演会と記者会見を名古屋市科学館で行う予定であり、名古屋大学・名古屋市科学館との共催で行う提案がなされた。また、各セッションの部屋の間が一部離れていることが懸念事項である。

III-7. 年会ハイブリッド化タスクフォースからの報告（資料なし、太田）

Covid-19 終息後のハイブリッド開催の運営に関して、(i)現地開催とフルオンラインの交互開催、(ii)ハイブリッド開催の開催方法として、タイプ1:講演は現地のみでオンラインは視聴のみ、タイプ2:講演は現地のみだがオンラインからの質疑も可能とする、タイプ3:オンライン講演も可能、といった方式を検討し、どの方式を選択するかは各開催地にゆだねるのか、或いは学会として統一しておくのかは検討課題であること、(iii)講演の録画及び、年会終了後の視聴をオプションとする、など様々な可能性を検討していることが報告された。今後会員の意見分布を調査する予定である。

[資料リスト]

資料1 理事会出欠表

資料2 公益社団法人日本天文学会理事会 (2022年5月21日) 議事録 (案)

資料3 加入者の承認、移籍の承認・報告、退会の報告

資料4 天文月報記事のオンライン公開について

資料5 インターネット天文学辞典編集委員の増員について

資料6 天文教育委員会より、前回理事会 (2022年5月21日) 以降の活動報告 (2022年9月5日現在)

資料7 PASJ 編集委員会からの報告

資料8 日本天文学会理事会 2022年9月 年会実行委員会活動報告

2022年9月13日

会 長：山本 智 印

副会長：太田 耕司 印

副会長：久保田 あや 印

監 事：奥村 幸子 印

監 事：花岡 庸一郎 印